

1 学校教育目標

- 広い視野に立ち、深く考える人になろう。
- あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- 進んでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- 健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	安心・安全な学校 誇れる学校
○児童・生徒像	自律（自己をコントロールする力）心もち、他者と協働（多様性を認め合い、自己の役割を果たそうと努力すること）できる生徒
○教師像	学び続ける教師 信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○学校の現状

- （１）落ち着いた学校生活環境の中で教育活動が行われ、生徒が学校行事や生徒会活動、委員会活動、部活動に熱心に取り組んでいる。
- （２）基礎基本の学力定着を目指し、ICT 機器の活用、朝学習、朝テスト、補充学習を実施している。
- （３）足立区 ICT 推進研究校・文科省リーディング DX 連携協力校としての取り組みによる成果が見られた。
- （４）教職員が熱心に教育活動に取り組んでいる。
- （５）開かれた学校づくり協議会、PTA、おやじも会と協力連携した行事運営が行われている。生徒・教員が地域行事へ参加している。

○前年度の成果と課題

- （１）全学年、全教科での一人一台端末の有効活用
- （２）学力向上の基本である、生活規律の徹底を図る必要がある。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	デジタル学習基盤を活用した情報活用能力の育成			○	○	
3	自律と協働を目指した生活規律の定着と特別支援教育の充実			○	○	

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
一人一台端末の活用した授業実践		年度末学力調査正答率 6 0 %				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	デジタル学習基盤を活用した授業実践	全学年 全教科	通年	(1)教育活動全般でのデジタル学習基盤活用 (2)Google Workspace for Education 等の有効活用 (3)デジタル学習基盤を活用した主体的・協働的な学びの実践	生徒授業アンケート 授業観察等	教員の活用に対する肯定的意見 7 0 % 以上	自己評価の際に記入		
2 継続	AI ドリルの有効活用	全学年 5 教科	通年	(1) 5 教科において積極的に活用する。 (2)AI ドリル活用における評価方法を検証する。	授業観察等 Qubena マネージャーによる確認	MAU 率 5 教科平均 5 0 % 以上			
3 継続	足立スタンダードの実践	全学年 全教科	通年	全教科の授業において「足立スタンダード」の徹底を図る。	生徒授業アンケート 授業観察等	めあてとまとめ、主体的な学習に対する肯定的意見が平均 8 0 % 以上			
4	教員の授業力向上	全学年 全教科	通年	(1) 授業力向上研修の実施 (2) 評価評定に関する研修の実施等	生徒授業アンケート 授業観察 面談	わかりやすい授業であるの肯定的意見が平均 70% 以上			

5 継続	学習習慣の 確立	全学年 5教科	通年	(1) 金曜日テスト (2) 放課後補充 (3) 家庭学習ノート 各種コンテスト	区学力調査結 果 各種コンテス ト	通過率 60%以上 合格率 80%程度			
---------	-------------	------------	----	---	----------------------------	------------------------	--	--	--

重点的な取組事項－2		デジタル学習基盤を活用した情報活用能力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全教員がデジタル学習基盤や各種アプリケーション活用した主体的・協働的学びの授業実践を行う。		生徒授業アンケートにおいて、「デジタル学習基盤を活用して分かりやすい授業」の肯定的評価が平均 70%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
リーディング DX 連携指定校・GIGA スクール推進研究校としての実践	デジタル学習基盤の有効活用	(1) 全学年全教科・領域でのデジタル学習基盤の活用。 (2) スローガンの作成 (3) 生徒授業アンケート (4) 年度末学校評価 (5) 授業観察等	自己評価の際に記入		
	教員研修の充実と研究組織の強化	(1) 学校 ICT 推進課、Google 社との連携に基づく研修の実施 (2) 教員のスキルに応じた研修の実施 (3) デジタル学習基盤活用に係る研修の実施			
	リーディング DX 連携指定校・GIGA スクール推進研究校としての研修や研究の実践を校務軽減につなげる	(4) R6 に確立された領域での端末活用の維持向上 (5) 全学年全教科で、デジタル学習基盤の活用のための基本項目の作成 (6) ICT 推進委員会の強化 (7) AI 採点等の活用			

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－３		自律と協働を目指した生活規律の定着と特別支援教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己をコントロールする力をもち、多様性を受け入れ、自らの役割を果たそうと努力する生徒の育成		学校生活アンケート 区学力調査生活アンケート 学校評価	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
Web-QU、NINO等の客観的データに基づく生徒理解	各種研修の実施と充実	(1) 年２回 Web-QU 研修の実施 (2) NINO の取り組みと分析研修の実施 (3) 生徒理解研修の実施			
特別支援教育の充実	支援が必要な生徒を早期に見出し適切な支援につなげる。	(1) 特別支援教育部会の定期的な開催 (2) 巡回心理士と連携を図り、支援の必要な生徒を見出す。			
生活規律の徹底	(1) 生徒会及び委員会活動の活性化 (2) 生活指導部会の充実	(1) 生徒会役員会、各種委員会が独自の活動を展開する。 (2) 週１回の生活指導部会は情報共有にとどまらず、生活指導上の問題未然防止策を検討実施できる組織とする。			
不登校生徒への組織的な対応	特別支援教育委員会を中心とした組織的な対応を進める。	(1) 特別支援教育部会の中で、不登校対応中心の会を定期的に設定する。 (2) 不登校対応、別室登校のあり方を再検討する。 (3) 外部機関との連携を強化する。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）